

科目名	機能性構音障害			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							2年 前期
【授業の目的・ねらい】 構音器官の機能解剖および構音動態を知り、臨床の基本となる構音を聴き取る力、表記する力を身につける。 また、機能性構音障害の基本的な評価と指導法を身につける。							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 機能性構音障害の発現メカニズムや特徴を理解でき、評価・訓練とその基本的な技法を習得することができる。 臨床と国家試験に即した基礎的な知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚士が行う、機能性構音障害の基本的な評価と指導法を理解し実践できる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	機能性構音障害についての概要を説明できる						
2	発声発語器官の発生と機能解剖について簡単に説明できる						
3	正常構音の動態について理解する①						
4	正常構音の動態について理解する②						
5	主な構音障害の聴き取りができる①						
6	主な構音障害の聴き取りができる②						
7	構音障害の音声表記を理解できる						
8	構音の評価ができる①						
9	構音の評価ができる②						
10	構音の評価ができる③						
11	構音指導法が理解出来る①						
12	構音指導法が理解出来る②						
13	構音指導法が理解出来る③						
14	まとめ①						
15	まとめ②						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ 機能性構音障害							
【準備学習・時間外学習】 授業の復習を行う事、必要に応じ、小児セラピーの症例見学							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。							